

問 1 医薬品の本質に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は人体にとって異物（外来物）である。
- b 医薬品は期待される有益な効果（薬効）をもたらすものであり、好ましくない反応（副作用）を生じるものは医薬品に該当しない。
- c 人体に対して使用されない医薬品についても、人体がそれに曝<sup>さら</sup>されて健康を害することもある。
- d 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とするものであり、検査薬は含まれない。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 2 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の保健衛生上のリスクは医療用医薬品と同等であり、科学的な根拠に基づき適正な使用が図られる必要がある。
- b 検査薬は、人体に対して直接使用されないため、人の健康に影響を与えることはない。
- c 一般用医薬品は一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるが、専門家が適切な情報提供を行い、購入者の相談に対応することが不可欠である。
- d 一般の生活者においては、一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能、効果や副作用について誤解や認識不足を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問3 医薬品の作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 我が国では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項において、医薬品の副作用を「許可医薬品が適正な使用目的に従わない又は適正に使用されない場合において、その許可医薬品により人に発現する有害な反応」と定義している。
- b 薬という物質、すなわち薬物が生体の生理機能に影響を与えることを生理作用という。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は解明されており、十分に注意して適正に使用された場合、重大な副作用を引き起こすことはない。
- d 副作用は、容易に異変を自覚できるものとは限らない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問4 アレルギー（過敏反応）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 免疫は、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を攻撃するために生じる反応である。
- b アレルギーを引き起こす原因物質をアナフィラキシーという。
- c 通常の免疫反応の場合、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程であるが、アレルギーにおいては過剰に組織に刺激を与える場合も多い。
- d 医薬品にアレルギーを起こしたことの無い人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合、医薬品によるアレルギーを生じることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	正

問5 一般用医薬品の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の不適正な使用は、「使用者の誤解や認識不足に起因するもの」と「本来の目的以外の意図で使用するもの」に大別される。
- b 症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けることは、適切な治療の機会を失うことにつながりやすい。
- c 習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがある。
- d 定められた用量を超えて服用すると急性中毒を生じる危険性が高くなる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問6 他の医薬品との相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用が異なる複数の成分を組み合わせ含んでいることが多く、他の医薬品と併用した場合に、作用が強く出過ぎることがある。
- b 緩和を図りたい症状が明確である場合は、症状に合った成分のみが配合された医薬品を選択することが望ましい。
- c 医療機関で治療を受けていて症状が改善しないときは、患者の判断において一般用医薬品を併用することが望ましい。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、同時に使用できない薬剤が医療機関・薬局から交付されている場合には、医師・歯科医師又は薬剤師に相談するよう説明がなされるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問7 医薬品と食品との飲み合わせに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。
- b アルコールは、主として小腸で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、その代謝機能が高まっていることが多い。
- c カフェインやビタミンA等のように、食品中には医薬品の成分と同じ物質が存在する場合があります、それらを含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取となるものがある。
- d 生薬成分が配合された医薬品の効き目又は副作用を増強させる食品はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問8 小児等の医薬品の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において用いられる年齢区分（おおよその目安）として、小児は7歳未満とされている。
- b 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄が早く、作用が弱くなることがある。
- c 乳児は医薬品の影響を受けやすいことから、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。
- d 登録販売者は、小児に対する用法用量が定められていない一般用医薬品について、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるよう、小児の保護者に対して説明をすることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 9 高齢者の医薬品の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、年齢からどの程度リスクが増大しているかを判断することが容易であり、年齢に着目して情報提供や相談対応することが重要である。
- b 高齢者は、基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。
- c 一般用医薬品の用量は、ある程度の個人差を織り込んで設定されているため、高齢者においても、基本的には定められた用量の範囲内で使用されることが望ましい。
- d 高齢者が、複数の医薬品を長期間に渡って使用する場合には、副作用を生じるリスクは低い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

問 10 女性と医薬品に関する以下の記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊婦が一般用医薬品を使用することにより症状の緩和を図ろうとする場合には、一般用医薬品による対処が適切かどうかを含めて慎重に考慮したうえで使用しなければならない。
- b 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混ざらない仕組みがあり、胎児への医薬品の成分への移行が防御されるため、妊婦が一般用医薬品を使用しても安全であると評価されている。
- c ビタミンC含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- d 医薬品の種類によっては、体に吸収された医薬品の成分の一部が乳汁中に移行し、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することになる場合がある。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 11 医薬品の品質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「使用期限」とは、未開封状態で適切に保管された場合に品質が保持される期限である。
- b 医薬品に配合されている成分は、高温や紫外線による品質の劣化を起こしにくいものが多い。
- c 医薬品は、適切な保管・陳列がなされた場合には、時間の経過による品質の劣化は認められない。
- d 一部が変質した物質から成っている医薬品であっても販売することができる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

問 12 プラセボ効果に関する以下の記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化等が関与して生じると考えられている。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応には、不都合なもの（副作用）は含まれない。
- d 一般用医薬品の購入者の使用による効果がプラセボ効果と思われるときは、プラセボ効果を継続させるため、その一般用医薬品を継続して使用するよう助言するべきである。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 13 一般用医薬品の役割に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 軽度な疾病に伴う症状の改善
- b 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防
- c 健康状態の自己検査
- d 衛生害虫の防除

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 14 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の有効性、安全性については、市販前に医学・薬学等の知見に基づき確認されており、市販後の確認は行われたい。
- b 一般用医薬品に添付されている文書等には、必要な情報が記載されている。
- c 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- d 販売時の取扱い、製品の成分分量、効能効果、用法用量、使用上の注意が変更になった場合には、それが添付文書や製品表示の記載に反映される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問 15 セルフメディケーションに関する以下の記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

- a WHOによれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- b 薬事法において、セルフメディケーションとは、医療費抑制のために一般用医薬品を積極的に使用して医療機関受診の削減を行うことである。
- c 一般用医薬品を使用して対処した場合でも、一定期間もしくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには医師の診療を受けることが望ましい。
- d 一般用医薬品の販売などに従事する専門家は、購入者に対して他の購入者からの聞き取りに基づいた情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 16 適切な医薬品選択等に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高熱や激しい腹痛など、重い症状を呈している場合でも、一般用医薬品を使用することが適切な対応である。
- b 乳幼児、妊婦、通常の成人と比較した場合、一般用医薬品で対処可能な症状の範囲は変わらない。
- c 購入者から、他の薬局で購入した一般用医薬品を1年間使用しているが、症状が改善しないと相談があったため、医療機関の受診を勧めた。
- d 購入者が、あらかじめ購入する一般用医薬品の品名を指定してきたが、使用する人や症状の相談を受けたうえで、別の一般用医薬品を勧めた。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)



問 17 登録販売者が医薬品を販売する時のコミュニケーションについての以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、医薬品の販売に従事する専門家はその選択や使用を判断する主体であり、購入者のセルフメディケーションに対して、医薬関係者として関与する姿勢で臨むことが基本である。
- 2 添付文書による医薬品の情報提供を常に行っており、特定の顧客に長時間接客することは不公平であるので、会話しやすい雰囲気づくりはすべきではない。
- 3 医薬品の販売に際して、現に症状のある本人が購入しようとしている場合は、購入者の言葉だけでなく、その人の状態や様子全般から得られる情報も重要である。
- 4 高齢者には医薬品の販売時の説明では理解してもらえないことが多いため、服用時に家族や介護者から説明を受けるよう薦め、高齢者本人には説明を行わない。

問 18 薬害に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生物由来の医薬品等によるヒト免疫不全ウイルス（HIV）やクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の感染被害が多発したことから、2002年に行われた薬事法改正に伴い、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。
- b HIV訴訟の和解を踏まえ、国は、HIV感染者に対する恒久対策のほか、承認審査体制の充実や製薬企業に対して従来の医薬品の副作用報告に加えて感染症報告の義務付けを行っている。
- c サリドマイド訴訟をきっかけとして、WHO加盟国を中心に、市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。
- d 医薬品副作用被害救済制度は、1979年にサリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 19 サリドマイドに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a サリドマイド製剤は、催眠鎮静成分として承認されていた。
- b 妊娠している女性がサリドマイドを摂取した場合、胎盤関門を通過して胎児に移行し、主な症状として、胎児に重篤な神経症状が発生することがある。
- c 先天異常の原因となる血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、S体のみが有する作用である。
- d サリドマイドは、S体のみを分離して製剤化すると催奇形性を抑制することができる。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 20 スモンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモンとは、亜急性<sup>せきずい</sup>脊髄視神経症のことである。
- b キノホルム製剤は、米国では1960年にアメーバ赤痢に使用が制限されたことから、我が国でも同年に販売が停止された。
- c スモンは、その症状として、認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- d 現在ではスモン患者に対し、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、重症患者に対する介護事業等が行われている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 21 かぜの発症や症状に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜは、通常は数日から1週間程度で自然寛解する。
- b 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき又は悪化するようなときは、かぜではない可能性が高い。
- c かぜの原因となるウイルスは1種類である。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜの別称で、インフルエンザとかぜの症状は同じである。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 22 かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かつこんとう葛根湯は、かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適す。
- b まおうとう麻黄湯は、かぜのひき始めから数日たって微熱があり、寒気や頭痛、吐き気がする等のかぜの後期の症状に適す。
- c しょうさいこうとう小柴胡湯は、かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適す。
- d さいこけいしとう柴胡桂枝湯は、かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛い場合に適す。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 23 次の 1～5 で示されるかぜ薬に配合される主な鎮咳成分のうち、依存性があるものはどれか。

- 1 ノスカピン
- 2 臭化水素酸デキストロメトルファン
- 3 リン酸ジヒドロコデイン
- 4 ヒベنز酸チペピジン
- 5 塩酸クロペラスチン

問 24 解熱鎮痛成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンアルミニウムは、アスピリンに比べて胃腸障害が少ない。
- b 一般用医薬品としてのアスピリンやサザピリンは、15歳未満の者も使用できる。
- c アスピリンは、血液を凝固しにくくさせる作用を有する。
- d エテンザミドについては、15歳未満の者で水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	誤	誤

問 25 次の 1～5 のうち、鉄製剤の服用によって起こりうる状態の変化はどれか。

- 1 便が赤くなる。
- 2 便が黒くなる。
- 3 便が白くなる。
- 4 尿が黒くなる。
- 5 尿が赤くなる。

問 26 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 慢性的に不眠症状がある人を適応対象としている。
- b 妊娠中に生じる睡眠障害は適応対象とはならない。
- c 15歳未満の者には使用を避ける必要がある。
- d 目が覚めたあとも、注意力の低下や寝ぼけ様症状を起こすことがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問 27 カフェインに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 脳に軽い興奮状態を引き起こし、眠気や倦怠感<sup>けん</sup>を一時的に抑える効果がある。
- b 腎臓での水分の再吸収を促進し、尿量の減少をもたらす。
- c 胃液の分泌<sup>こう</sup>を亢進させる作用があり、副作用として胃腸障害が現れることがある。
- d 胎盤関門を通過して、胎児の心拍数を減少させる可能性がある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 28 乗物酔い防止薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 乗物酔い防止薬には、3歳未満の乳幼児向けの製品はない。
- b 乗物酔い防止薬には、主として吐き気を抑えることを目的とした成分が配合されているので、つわりに伴う吐き気への対処としても使用できる。
- c 乗物酔い防止薬に配合される抗コリン成分は、眠気を促すほかに、散瞳<sup>どう</sup>による目のかすみや異常なまぶしさを引き起こすことがある。
- d 乗物酔い防止薬とかぜ薬との併用は特に問題がない。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 29 小児の瘧<sup>かん</sup>を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 夜泣き、ひきつけ、瘧<sup>かん</sup>の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b 鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- c 古くから伝統的に用いられているため、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用がない。
- d 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問 30 鎮咳去痰薬<sup>がい たん</sup>に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩化リゾチーム \_\_\_\_\_ 気道の炎症を和らげる
- b 塩酸ブロムヘキシン \_\_\_\_\_ 中枢神経系に作用して咳<sup>せき</sup>を抑える
- c ヒベンズ酸チペピジン \_\_\_\_\_ 痰<sup>たん</sup>の切れを良くする
- d 塩酸メチルエフェドリン \_\_\_\_\_ 気管支を拡げる

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 31 ヨウ素系殺菌消毒成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。
- b 妊娠中に摂取されたヨウ素は胎盤関門を通過しない。
- c 授乳中に摂取されたヨウ素の一部は乳汁中に移行する。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分により、口腔粘膜の荒れ、しみる、灼熱感、悪心（吐き気）、不快感の副作用が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 32 胃腸に作用する薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸薬の配合成分としては、胃酸の働きを弱めるもの、胃液の分泌を抑えるものなどが用いられる。
- b 健胃薬に配合される生薬成分は、独特の味や香りを有し、唾液や胃液の分泌を促して胃の働きを活発にする作用があるとされる。
- c 消化薬は、炭水化物、脂質、蛋白質等の合成に働く酵素を補うことを目的とする医薬品である。
- d 乾燥水酸化アルミニウムゲルは健胃成分として配合される。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 33 腸に作用する薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 整腸薬の配合成分としては、腸内細菌の数やバランスに影響を与えたり、腸の活動を促す成分が主として用いられる。
- b 止瀉薬の配合成分としては、腸やその機能に直接働きかけるもののほか、腸管内の環境を整えて腸に対する悪影響を減らすことによる効果を期待するものもある。
- c 瀉下薬（下剤）の配合成分としては、腸管を直接刺激するもの、糞便のかさや水分量を増すものがある。
- d 整腸薬、瀉下薬では、医薬部外品として製造販売されている製品もあり、それらは配合できる成分やその上限量が定められていない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	正	正	正	誤

問 34 浣腸薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 剤型として注入剤や坐剤のほかに塗布剤がある。
- b 繰り返し使用すると直腸の感受性が高まり、効果が強くなる。
- c ソルビトールが成分として用いられることがある。
- d グリセリンは、腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)



問 35 腸に作用する漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 桂枝加芍薬湯けいし かしゃくやくとうは、腹部に膨満感のある人における、しぶり腹、腹痛に適すとされる。
- b 麻子仁丸ましにんがんは、便秘に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢の副作用が現れやすい。
- c 大黃甘草湯だいおうかんぞうとうは、便秘に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢の副作用が現れやすい。
- d 大黃牡丹皮湯だいおうぼたんびとうは、比較的体力があり、下腹部痛があって、便秘しがちな人における、月経不順、月経困難、便秘、痔疾じに適している。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問 36 次の1～5で示される蛋白質たんのうち、赤血球が酸素を運搬する上で重要なものはどれか。

- 1 トロンビン
- 2 アルブミン
- 3 グロブリン
- 4 レニン
- 5 ヘモグロビン

問 37 鎮暈薬の成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アミノ安息香酸エチルは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐き気を抑える。
- b 臭化水素酸スコポラミンは、肝臓で代謝されにくいいため、抗ヒスタミン成分等と比べて作用の持続時間は長い。
- c ジメンヒドリナートは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる。
- d 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 38 高脂血症のため高コレステロール改善薬を服用する患者へのアドバイスとして、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 糖分や脂質を多く含む食品の過度の摂取を控えたほうがよい。
- b 高コレステロール改善薬の服用により、十分な痩身効果が期待できる。
- c 運動を極力控え、安静を保つ。
- d 日常生活に適度な運動を取り入れる。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 39 コレステロールに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 低密度リポ蛋白質（LDL）は、コレステロールを末梢組織から肝臓へと運ぶリポ蛋白質である。
- 2 血液中のLDLが少なく、高密度リポ蛋白質（HDL）が多いと、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- 3 血漿中のリポ蛋白質のバランスの乱れは、生活習慣病を生じる以前の段階では動悸などの自覚症状を伴うことが多い。
- 4 コレステロールの産生及び代謝は、主として肝臓で行われる。

問 40 ロートエキスを主成分とする胃腸鎮痛鎮痙薬の副作用として便秘が知られているが、その発現機構に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

( a )の伝達物質である( b )と受容体の反応を( c )  
 ことで消化管の運動が抑制される。

	a	b	c
1	交感神経	ノルアドレナリン	亢進する
2	交感神経	アセチルコリン	妨げる
3	副交感神経	ノルアドレナリン	妨げる
4	副交感神経	アセチルコリン	亢進する
5	副交感神経	アセチルコリン	妨げる

問41 痔及び痔の薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、酢酸ヒドロコルチゾンが配合されている坐剤及び注入軟膏は、長期連用を避ける必要がある。
- 2 外用痔疾用薬の坐剤及び注入軟膏は、成分の一部が直腸粘膜から吸収されるが、循環血流中に移行することはない。
- 3 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的なものである。
- 4 一定期間、痔疾用薬を使用してもなお、排便時の出血等の症状が続く場合には、早期に医療機関を受診して専門医の診療を受けることが望ましい。

問42 第1欄の記述は、漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

#### 第1欄

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適するとされるが、胃腸の弱い人、下痢しやすい人では、食欲不振、胃部不快感、腹痛、下痢の副作用が現れるおそれがあるため使用を避ける必要があり、また、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、のぼせ、動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

#### 第2欄

- |         |       |       |         |         |
|---------|-------|-------|---------|---------|
| 1 八味地黄丸 | 2 温清飲 | 3 乙字湯 | 4 竜胆瀉肝湯 | 5 桂枝茯苓丸 |
|---------|-------|-------|---------|---------|

問43 婦人用薬に用いられる生薬成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 オウレンは、胃腸症状に対する効果を期待して用いられる。
- 2 サンソウニン<sup>1</sup>は、利尿作用を期待して用いられる。
- 3 センキュウ<sup>2</sup>は、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和する作用を期待して用いられる。
- 4 シャクヤク<sup>3</sup>は、鎮痛・鎮痙<sup>けい</sup>作用を期待して用いられる。

問 44 アレルギー用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギー用薬は、蕁麻疹<sup>じん しん</sup>や湿疹<sup>しん</sup>、かぶれ及びそれらに伴う皮膚の痒み<sup>かゆ</sup>又は鼻炎に用いられる。
- b 一般用医薬品のアレルギー用薬は、一時的な症状の緩和に用いられるものであり、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けることが望ましい。
- c 蕁麻疹<sup>じん しん</sup>や鼻炎等のアレルギー症状に対する医薬品の使用は、基本的に対症療法である。
- d 鼻炎用内服薬と鼻炎用点鼻薬のように、内服薬と外用薬でも同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複することもあるが、それらは相互に影響し合わないため、併用することができる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

問 45 鼻炎用点鼻薬に配合される成分について、正しいものの組合せはどれか。

- |   |                |       |            |
|---|----------------|-------|------------|
| a | 塩酸フェニレフリン      | _____ | アドレナリン作動成分 |
| b | マレイン酸クロルフェニラミン | _____ | 抗ヒスタミン成分   |
| c | 塩化セチルピリジニウム    | _____ | 局所麻酔成分     |
| d | 塩酸テトラヒドロゾリン    | _____ | 殺菌消毒成分     |

- 1 ( a 、 b )      2 ( a 、 c )      3 ( b 、 d )      4 ( c 、 d )

問 46 鼻炎用点鼻薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 剤型はスプレー式で、鼻腔内に噴霧するものだけである。
- b アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると、鼻づまりがひどくなりやすい。
- c 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲に、蓄膿症は含まれている。
- d スプレー式鼻炎用点鼻薬は、汚染を防ぐために容器はなるべく直接鼻に触れないようにするほか、他人と点鼻薬を共有しないようにする必要がある。

1 ( a、 b )      2 ( a、 c )      3 ( b、 d )      4 ( c、 d )

問47 鼻に用いる薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸リドカインは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑えることにより、鼻アレルギー症状を緩和する。
- b 塩化ベンザルコニウムは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎に対しては無効である。
- d 塩酸ナファゾリンは、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 48 点眼薬の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼薬は、無菌製剤である。
- b 点眼薬の容器に記載されている使用期限内は、開封又は未開封にかかわらず品質は保証されるものである。
- c 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。
- d 医師から処方された点眼薬を使用している場合には、一般用医薬品の点眼薬を使用する前に、その適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問 49 毛髪用薬に配合される成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩化カルプロニウムは、末梢組織（適用局所）において、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- 2 塩化カルプロニウムの副作用として、局所又は全身性の発汗、それに伴う寒気、震え、吐き気が現れることがある。
- 3 脱毛は女性ホルモンの働きが過剰であることも一因とされているため、男性ホルモン成分の一種である安息香酸エストラジオールが配合されている場合がある。
- 4 生薬成分であるヒノキチオールは、タイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

問 50 歯槽膿漏薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 外用薬と内服薬を併用してはならない。
- 2 外用薬には、歯周組織の炎症を和らげることを目的として、グルコン酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール等が配合されている場合がある。
- 3 内服薬には、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して、銅クロロフィリンナトリウムが配合されている場合がある。
- 4 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、ビタミンEが配合されている内服薬がある。

問 51 歯痛薬（外用）に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯の齲蝕（むし歯）が修復されることはない。
- b 塩酸ジブカインは殺菌消毒成分として用いられる。
- c 生薬であるサンシシは、抗炎症作用を期待して用いられる。
- d フェノールなどの殺菌消毒成分は歯以外の口腔粘膜にも使用できる。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 52 口内炎及び口内炎用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 患部からの細菌感染を防止することを目的として、グリチルリチン酸二カリウム、グリチルレチン酸等が配合されている場合がある。
- b 口腔内に適用されるため、ステロイド性抗炎症成分が配合されている場合には、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
- c 一般用医薬品による副作用として口内炎が現れることがある。
- d 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 53 禁煙補助剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 有効成分のニコチンは胃の粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。
- b 妊娠又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性は使用を避ける必要がある。
- c 喫煙を完全に止める前から使用を開始する。
- d 6ヶ月を超える使用は避けることとされている。

1 ( a、 b )      2 ( a、 c )      3 ( b、 d )      4 ( c、 d )

問 54 ビタミンAの働き及び副作用に関する以下の記述について、(            )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の(      a      )内はどちらも同じ字句が入る。

ビタミンAの主薬製剤は、酢酸(      a      )、パルミチン酸(      a      )、ビタミンA油、肝油等が配合された製剤で、目の乾燥感、夜盲症(とり目)の症状緩和、また、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時、発育期等のビタミンAの補給に用いられる。

一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は(      b      )が上限となっているが、妊娠3ヶ月前から妊娠3ヶ月までの間に、ビタミンAを1日(      c      )以上摂取した妊婦から生まれた新生児において先天異常の割合が上昇したとの報告がある。そのため、妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる女性及び妊娠を希望する女性では、過剰摂取を避ける必要がある。

	a	b	c
1	トコフェロール	4 0 0 0 国際単位	1 0 0 0 0 国際単位
2	トコフェロール	1 0 0 0 国際単位	4 0 0 0 0 国際単位
3	レチノール	4 0 0 0 国際単位	4 0 0 0 0 国際単位
4	レチノール	4 0 0 0 国際単位	1 0 0 0 0 国際単位
5	レチノール	1 0 0 0 国際単位	1 0 0 0 0 国際単位



問 55 漢方の基本的な考え方に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 虚証とは、体内の臓器を働かせるエネルギーの貯蔵量が少ない体質（虚弱体質（体力の衰えている人、体の弱い人））をいう。
- b 実証とは、体内の臓器を働かせるエネルギーの貯蔵量が多い体質（比較的体力がある状態の人）をいう。
- c 陰病とは、実際に使用するエネルギーが多いため臓器の機能が亢進している状態をいう。
- d 陽病とは、実際に使用するエネルギーが多いため臓器の機能が低下している状態をいう。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	正

問 56 消毒薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 トリクロロイソシアヌル酸は、金属腐食性が比較的抑えられているため、プールの殺菌・消毒に用いることが可能である。
- 2 クレゾール石鹼液は一般細菌類及びウイルスに対して、殺菌消毒作用を有している。
- 3 次亜塩素酸ナトリウムは、吐瀉物や血液等が床等にこぼれたときの殺菌消毒にも適しているが、有機物の影響を全く受けないため殺菌消毒の対象物を洗浄してもその効果に差はない。
- 4 イソプロパノールはウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。

問 57 衛生害虫とその防除方法に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a シラミの防除方法として、散髪や入浴による除去の他に、シラミの刺咬による痒みや腫れ等の症状を和らげる効果のあるフェノトリンを配合したシャンプーを用いる。
- b ゴキブリの燻蒸処理を行う場合は、その卵が医薬品の成分が浸透しない殻で覆われているため、殺虫効果を示さないので、3週間位後にもう一度燻蒸処理を行い、孵化した幼虫を駆除する必要がある。
- c ハエの防除の基本はウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- d ツツガムシが生息する可能性がある場所に立ち入る際には、専ら蒸散剤による対応が図られる。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 58 忌避剤を使用する際の一般的な留意事項に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塗りむらがあると忌避効果が落ちるため、塗りむらがなくなるまで噴霧し続ける必要がある。
- b ディートを含有する忌避剤は、生後6ヶ月から12歳未満の者への使用は避けることとされている。
- c 玄関のような狭い場所での使用は避けることが望ましい。
- d 薬剤により合成繊維やプラスチック製品の腐食を生じることがある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 59 妊娠検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 子宮外妊娠や胎状奇胎などを生じている場合には、妊娠しているにもかかわらず、検査結果が陰性となることがある。
- b 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから1週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。
- c 採取した尿を放置すると、雑菌の繁殖等によって尿中の成分の分解が進み、検査結果に影響を与えるおそれがある。
- d 検査薬が高温になる場所に放置されたり、冷蔵庫内に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 60 受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 月経以外の不規則な出血（不正出血）がある場合には、すみやかに医療機関を受診して専門医の診療を受けることが望ましい。
- b 鼻炎症状はかぜの随伴症状として現れることも多いが、高熱を伴っている場合には、かぜ以外のウイルス感染症やその他の重大な病気である可能性があり、医療機関を受診することが望ましい。
- c 外皮用薬の殺菌消毒成分はすべての細菌やウイルスに効果があるわけではないため、傷口に使用後5～6日経過しても、傷口が化膿しているような場合には、医療機関を受診することが望ましい。
- d 尿糖・尿蛋白検査薬の検査結果では、尿糖又は尿蛋白が陰性でも、何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医療機関を受診して医師に相談することが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	正